

1. 調査の概要

1.1 調査の目的

魚津市内のバス路線は、現在、有償運行バスとして、民間会社が電鉄魚津駅から西布施地区方面と片貝地区方面へ運行しているもの及び魚津市が市街地内をめぐる路線を1系統2路線とJR魚津駅から郊外地域をめぐる路線6路線を運行委託しているものがある。

魚津市が運行している魚津市民バスは、道路運送法第79条の規定に基づき事業実施している。このうち、市街地巡回ルートは民間事業者へ運行委託しており、郊外地域のルートは、地域を中心に組織したNPO法人にその運行を委託している。また、郊外地域のルートは、税負担の公平性や市民協働の観点から、運賃収入と地元負担を併せて、運行委託費用の1/3（スクールバス対応地域は、19/72）以上の収入確保を魚津市からNPO法人へ依頼している状況である。

このような状況の中、市民バスの運行形態による弊害や民間路線バスとの協調、交通空白域への対応、財政逼迫による運行経費の削減等の課題も多く、バス運行のあり方について見直しを迫られている。

そこで、当調査は、公共交通活性化総合プログラムを活用し、検討委員会や住民アンケート調査などを通じて魚津市民の声を反映しながら、既存のバス公共交通体制をベースに、魚津市の実情に即した効率的・効果的かつ持続可能な公共交通体系の再構築に向けた調査を行うことを目的とする。

1.2 調査の内容

当調査の内容を以下に示す。

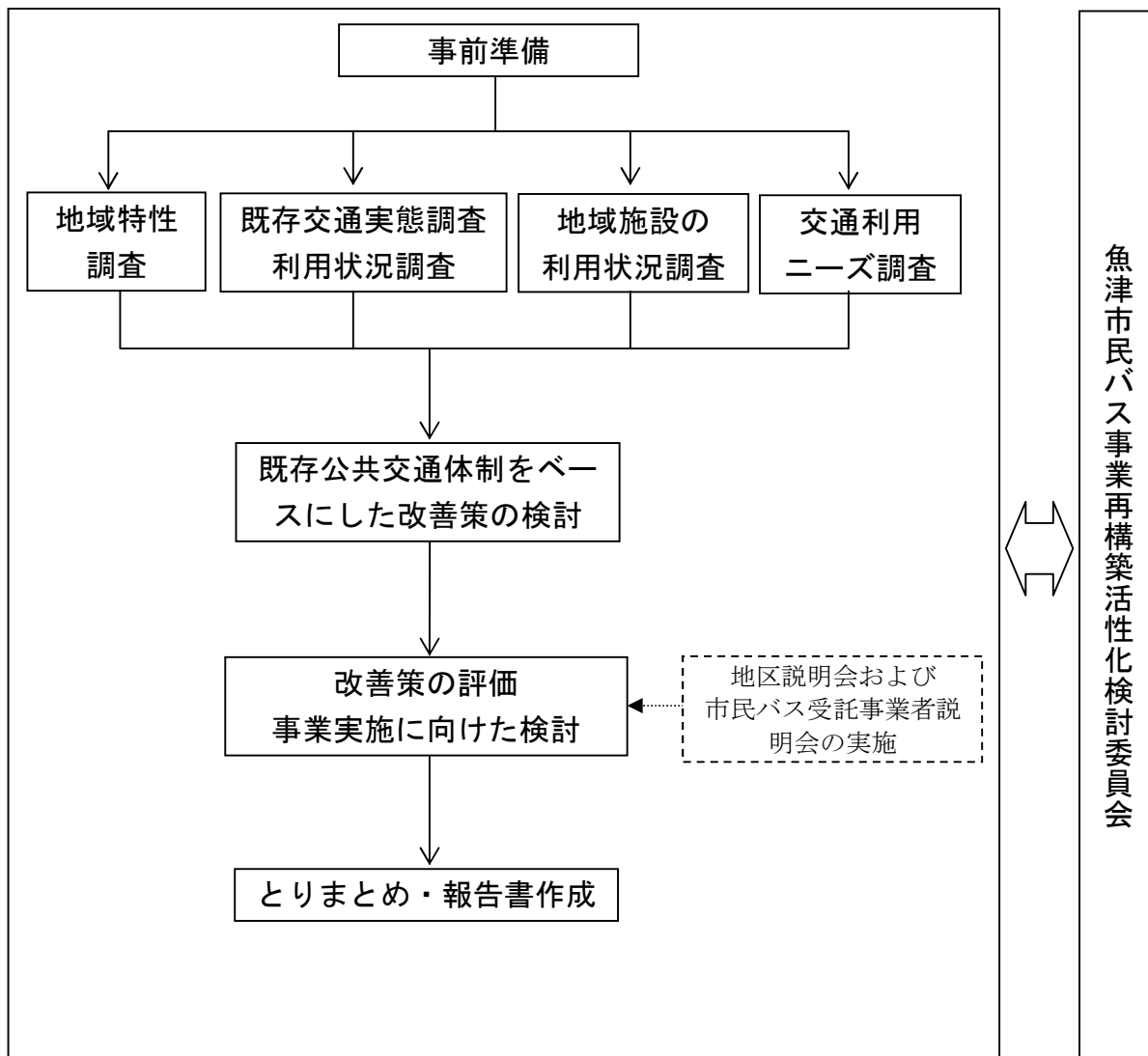
■調査名：魚津市民バス事業再構築活性化プログラムに関する調査業務

■履行期間：平成21年9月1日～平成22年3月26日

■調査実施項目

- ① 事前準備
- ② 地域特性調査
- ③ 既存交通実態調査・利用状況調査
- ④ 地域施設の利用状況調査
- ⑤ 交通ニーズ調査
- ⑥ 既存公共交通体制をベースにした改善策の検討
- ⑦ 魚津市民バス事業再構築活性化検討委員会開催補助並びに必要なに応じて魚津市民バス受託事業者への説明会及び住民への地区説明会の開催・運営
- ⑧ 改善策の評価(⑥で提案した解決策の妥当性・有効性の検証及びコストシミュレーション)
- ⑨ 提案の実現に向けた検討
- ⑩ 上記①～⑨をとりまとめて、「魚津市民バス事業再構築活性化プログラム検討委員会」に提案し、地域の総合的な公共交通体系の構築について、その方向性をとりまとめた報告書の作成

1.3 調査の流れ



〔各調査の把握項目と調査方法〕

調査項目		把握項目	調査方法
地域特性調査		<ul style="list-style-type: none"> ・位置、地勢 ・人口動態 ・高齢化の状況 ・行財政の状況 ・マイカー依存状況 ・土地利用の変化 ・主要集客施設分布状況 ・観光入り込み客数の推移 など 	■既存資料収集により把握
既存交通実態調査・利用状況調査		<ul style="list-style-type: none"> ・路線別の利用者数の推移 ・利用者の特性(目的、利用時間帯) ※住民アンケートを活用 ・サービスの現状(ルート、運行頻度、料金体系、公共交通空白域、バス停環境、駅周辺環境、接続状況など) ・収支状況 など 	■既存資料・現地踏査などにより把握
地域施設の利用状況調査 (施設関係者アンケート調査)		<p>〔設問内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用状況(平均来訪者数、ピーク時間帯、駐車可能台数、駐車場不足状況) ・バス運行に対する改善要望、来訪者からの要望 ・バス運行見直しに対する協力意向、協力できること ・バス利用促進に向けたアイデア ・自由意見 	<ul style="list-style-type: none"> ■調査対象：商業施設、病院などの集客施設関係者 ■配布回収方法：郵送による調査票の配布・回収、返信先は魚津市 ■対象施設：魚津市内の主要な病院・商業施設等
交通利用 ニーズ調査	住民アンケート	<p>〔設問内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における移動について よく利用する手段、車の運転について、自宅周辺におけるバス停・駅の有無 ・バスの利用状況(利用頻度、目的、利用路線、時間帯、不満な点) ・バスを利用しない理由 ・鉄道の利用状況(利用頻度、目的、利用路線、時間帯、不満な点) ・鉄道を利用しない理由 ・日常生活の中で運行してほしいバス(起終点、利用日、頻度、利用意向) ・許容できる乗り換え回数 ・曜日限定運行について ・地域負担のあり方について ・個人属性(住んでいる場所、年齢、性別、世帯構成、マイカーで送迎してもらえる人の有無) ・自由意見 	<ul style="list-style-type: none"> ■調査票形式：個人票 ■対象者：50歳以上の魚津市民 ■抽出条件 <ul style="list-style-type: none"> ・単純無作為抽出法 ・市民バス運行エリア(7地区)、片貝地区、西布施地区の9つの地区に分割し、50歳以上の年齢層別、男女別の人口比率に応じて各地区に配布数を決定 ・1世帯から抽出数は1人とする。 ■配布回収方法：郵送による調査票の配布・回収、返信先は魚津市 ■配布件数：3,000件 ■目標回収数：1,500件(回収率50%) ※1
	高校生アンケート調査	<p>〔設問内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気が良い日の普通の通学・帰宅状況(利用交通手段、送迎状況、移動時間帯) ・雨や雪の日の通学・帰宅状況、変更する利用交通手段 ・自宅周辺におけるバス停・駅の有無 ・1ヶ月にかかる交通費、許容できる乗り換え回数 ・バスについて バスの利用状況(利用路線、不満な点)、バスをほとんど利用しない理由 ・鉄道について 鉄道の利用状況(利用駅、駅へのアクセス、不満な点)、鉄道を利用しない理由 ・運行してほしいバス ・個人属性(住んでいる場所、性別、バイク免許の有無、マイカーで送迎してもらえる人の有無) ・自由記入 ※保護者用記入欄もあり 	<ul style="list-style-type: none"> ■調査対象：市内高校4校の2年生全員 (魚津高校、魚津工業高校、新川みどり野高校、新川高校) ■配布・回収方法：学校に依頼
	大学生アンケート調査	<p>〔設問内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動手段選択肢にマイカーを追加した形で、高校生アンケートとほぼ同様の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ■調査対象：北陸職業能力開発大学の2年生全員 ■配布・回収方法：学校に依頼
	公共交通利用者 ヒアリング調査	<p>〔設問内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動目的、移動の起終点、移動手段 ・(バスを利用した方に対して)バスの利用路線、改善要望 ・(鉄道を利用した方に対して)鉄道の改善要望 	<ul style="list-style-type: none"> ■調査対象：JR魚津駅、電鉄魚津駅前における公共交通利用者 ■調査回数：平日1回 ■調査時間帯：9:00～19:00 目標サンプル数取得後終了 ■目標サンプル数：100～200件程度
	魚津市公共交通グループインタビュー調査	<p>〔インタビューの構成〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介(氏名、年齢、日常生活における移動状況など) ・議論テーマ「どうしたらバスに乗ってもらえるか？」 	<ul style="list-style-type: none"> ■調査形式：気兼ねなく発言できる空間を設定し、少人数のフリートーク形式で地域住民の本音を探る。 ■参加者：郊外地対策型の市民バス運行エリアごとにバス利用者 数名

※1 魚津市における過去の市民アンケート実績から設定

1.4 調査内容と報告書構成との関連

業務は調査内容にしたがって遂行するものであるが、とりまとめにあたっては委員会参加者や魚津市民など、対外的な説明に配慮した構成とする。
以下に調査内容と報告書目次との関連を示す。

〔調査内容と報告書構成との関連〕

